

教育長だより No. 1

2022年4月1日

コロナ禍での子どもの成長 ～ 年度の初めにあって～

新年度が始まりました。今日から入園・入学式まで校園では一番あわただしい時期だと思っています。どうぞうまく乗り切って、新しい子どもたちとの『素晴らしい出会い』を迎えてくださるようお願いします。

さて、この「コロナ禍」も3年目になりました。一昨年3月からは、ほぼ全国の学校園が3か月にわたる休業を余儀なくされました。まさかそんな重大な事態が続くとは誰も考えはしなかったと思います。そして、「コロナ禍」は子どもたちの生活に大きな影響を与えました。教室ではこれまで班やペアで机をくっつけ、随時授業での話し合い活動をしていましたが、今は全員が机を離して一列にしています。また、みんなで歌うことや身体接触を伴う運動、調理実習なども大きな制約を受けました。さらに、休み時間に大声を出して思いっきり走り回るような遊びまでも制限されています。楽しいはずの給食は、全員が前を向いて静かに食べる「黙食（もくしょく）」です。そんな昼食時に廊下を歩くと「今日は休みかな？」と思うほどの静けさです。しかしながら、各学校や園の先生方の工夫のもと、ホントにさまざまな授業や保育実戦が展開されてきました。例えば、タブレット（パソコン端末）を使って友達と意見のやり取りや発表をする授業、身体接触を控えた遊びの工夫などです。そうして、子どもたち自身も先生と一緒にこの苦難を乗り越えようとしてくれています。

そんな大変な毎日ですが、先日、中学2年生の作文をもらいました。厳しい中ですが「どっこい、たくましく成長してる！」という文章です。新しい一年のスタートに紹介します。

コロナ禍で考えたこと

この二年間、私たちは新型コロナウイルスの影響でやりたいことができない日々が続いています。たくさんの行事が中止、縮小になり、いっぱい傷つきました。

しかし、今までのような日々が過ごせなくても、逆にコロナ禍という状況だからこそ友達の大切さを知ることができたり、今までの普通のありがたさに気づいたりできました。そして、今の私たちには、自分たちで学校生活をどうしていくかを考えることができます。

何でもすぐに『コロナがなければ・・・』で終わらせるのではなく、新しい形を見つけて、みんなで協力すればできることが必ずあります。

私はコロナ禍でこのように考えられるようになりました。

うれしい作文ですね。私たち大人も精一杯子どもたちの応援をしたいと思います。校園所の教職員のみなさん、給食センターのみなさん、それから、図書館、博物館、体育館、文化ホールや文化財保護課のみなさん、そして、教育・保育に関わる全てのみなさん、一年間どうぞよろしくお願ひします。（教育長より）

※ 『教育長だより』は野洲市のホームページの「教育委員会」内に載せています。